

# 鶴見台

令和2年度 鶴見台中学校だより 第9号

発行日：令和2年12月24日（木）

発行者：別府市立鶴見台中学校 校長 神 淳祐

## 人権コンサート mon (モン) さん

11月19日（木）、ビーコンプラザのフィルハーモニアホールをお借りして、人権コンサートを行いました。今回、講師としてお招きしたのは mon さんです。mon さんは、「いじめ」や「差別」を受けながらも、家族や担任の先生から愛されたことで今の自分があるということ、歌と語りで伝えてくれました。実体験を通してのお話、一人一人に話しかける口調に引き込まれていきました。途中、涙する生徒も見られました。心に染み入る90分間のコンサートでした。以下、生徒の感想を紹介します。



心の中がスッキリするような、大変貴重な時間を過ごすことができました。特に心に残ったことは、困った事や辛い事、不安な事があった時に、一人で抱え込むのではなく、信頼できる友達や周りにいる大人の人に頼るという事です。無理をしたり、我慢してしまったりすることよりも、誰かに助けってもらったり、話し合ったりする事が大切だと思いました。今回のコンサートをきっかけに「生きる」という気持ちを何よりも大切にしていきたいです。

自分の過去の話から、私たちに伝えたいことを語ってくれて、それがすごく心に響いた。思い出すだけで涙が出るような辛いことなのに、言葉にして話してくれて、その言葉の一つ一つの重さというか、心に残る話ばかりだったので、本当に聞いて良かったと思った。歌も胸にずっと入ってくる声とメロディー、心に訴えかけてくる歌詞を聞いて感動した。何度も mon さんが言っていた“生きてほしい”という気持ちは、きっと一番伝えたいことなんだろうと思った。今日聞いた話、それを聞いて思ったこと、考えたことを忘れず、これから生きていく中で思い出して大切にしていきたいと思った。

リハーサルの時に漏れ聞こえた歌がCDかと思ってしまうほどきれいな歌声で、しかもとても気持ちが込められていて本当に感動しました。「大人は、思っているより子どものことを考えている」という言葉を聞いて少し安心しました。そして、歌を聞いたり、お話を聞いたりしているうちに、自分と重ねあわせてしまって、2、3回ほど涙をこらえる場面がありました。mon さんの言葉一つ一つが心にすんと落ちる気がして、とても救われました。自分は好きなものがたくさんあり、時間が全然ない状態なのですが、mon さんの言葉を胸に留め、好きなこと、やってみようことにはとことん挑戦していきたいと思います。

## 長い2学期の終了

8月18日（火）からスタートした2学期が、本日で終了します。19週、90日間にわたる長い2学期、修学旅行をはじめ、実施できなかった行事もありましたが、この状況下で、できることを生徒とともに模索しながら体育大会、文化祭に取り組んできました。その中で、生徒の頑張る姿をたくさん見ることができました。保護者、地域の方々におかれましては、それぞれに思いがおありかと存じますが、今後も学校の取組にご理解いただきたくお願い申し上げます。

また、マナー検定、読み聞かせ、期末PTAの中止により、参加予定の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。どの取組もとても重要なものと捉えておりますが、今後につきましては、やはりその時の状況に応じて対応させていただきたいと考えております。

なかなか見通しのもちにくい状況が続きますが、毎月中旬に翌月の行事予定をプリント及びホームページにてお知らせしていますので、ご活用いただければ幸いです。

今後も、人権的配慮の観点も含め、新型コロナウイルス感染症対策に適切に対応していきますのでご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。冬休み中、何かあれば学校（12/29～1/3の閉庁期間はつながりません）もしくは学級担任等にご連絡ください。

来たる新年が皆様にとって良い年でありますように、心からお祈り申し上げます。

